

2022年11月30日
大学連携研究設備ネットワーク

クライオマイクローム実践講習会報告書

【概要】マイクロームは装置が簡便であり、大気中で広範囲の切片を作成できる。やわらかい高分子材料の切片作成も、凍結固定することで切片を作成することが可能になる。クライオマイクロームの操作方法を、実習を交えながら習得するための実機講習会を開催した。

【開催日時】 2022年11月25日(金)、10時00分～18時00分

【場所】 ライカマイクロシステムズ(株) 10:00～12:00までの座学は、ハイブリッド配信

【講師】 伊藤 喜子(ライカマイクロシステムズ シニアアプリケーションスペシャリスト)

【参加対象者】 クライオマイクローム装置使用者および、今後使用する予定のある方。

【参加者数】 現地参加者 3名、ハイブリッド 17名(申し込み者 21名)

【主催】 大学連携研究設備ネットワーク

【開催内容】

10:00～12:00 座学 ミクローム一般からクライオマイクロームの操作方法について、講義を受けた。ハイブリッド配信も行った。



座学受講風景

13:00～18:00 装置実習 クライオウルトラマイクロトームの操作実習を行った。



実技講習風景

【アンケート】

現地参加者感想 3名

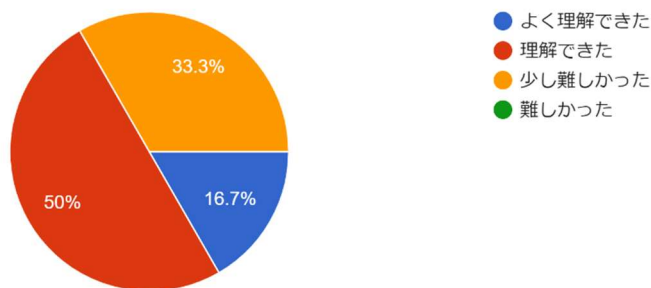
- 座学と、装置の立ち上げ、サンプル作成、装置の立ち下げまでの技術を取得できました。説明に慣れているからでしょうか、とても分かりやすい内容でした。電源を切る操作とコードを抜く順番を間違えると装置が故障すること、また、プログラムにはなかったコロジオン膜の作成方法、染色方法なども教えていただきました。忘れないうちに、確認作業を行いたいと思います。一緒に参加した技術職員の人達は、TEM 以外の担当装置も同じでしたので、お昼休みには、日頃困っていることを相談でき、いい経験になりました。
- ミクロトーム講習会に参加し、午前中に座学を学びクライオマイクロトームの利用方法など基礎的な知識を学ぶことができた。午後には装置を利用しクライオの立ち上げの仕方からカットの仕方を学ぶことができ、今後のサンプル作成に役立った。特に急遽コロジオン支持膜の作成方法を説明していただき、自分で支持膜を作成したことが無かったが、簡単に作ることができるので今後は自分で作ることができそう。自分の無機物サンプルを利用したカットの方法はうまくいかなく、相談にのっていただき望ましい樹脂埋めの方法を説明して頂けたので、サンプル作成方法を変更してマイクロトームを利用したい。今回の講習で実技の部分で装置に触れなかった点と座学や実技のマニュアルが無かったのは残念でした。コロナの影響でUPSの講習会が中止になってしまい、再講習会ができると嬉しい

です。

- 説明がわかりやすく、実際の作業の様子も目の前で見ることができて、非常に参考になりました。超薄切片作成のために重要なところ、時間をあまりかけなくてよいところなど、効率よく作業するコツを知ることができ、よかったです。マイクロトームの他にも、樹脂包埋やコロジオン膜の作成、染色など、有用なお話を聞くことができたので、早速実務に活かしていきたいと思います。可能であれば、講義の資料をいただけますと非常に嬉しいです。

ハイブリッド参加者 回答数 12名

講習会の内容について
12件の回答



- これから装置を使い始めるのですが、それに当たっての勉強するポイントがわかりました。ありがとうございました。
- 講習会名ですが、「クライオ "ウルトラ" マイクロトーム」と記載すべきであると思いました。
- 話し方が面白くて聞きやすかったです。また、実用的なことも教えていただき、大変参考になりました。
- 今回は現地での講習に参加できなかったのですが、再度行っていただけると嬉しいです。よろしく願いいたします。
- マイクロトームを使用していないので内容は難しかったが、このような講習会はありがたいです。
- 実技的な内容中心で良かったです。実技のテクニック（例えばプローブで丸まる切片を広げる）を写真（ポンチ絵）、動画でより多くみたく思いました。ご開催ありがとうございました。
- 午後に実技の講習があるとおっしゃっていましたが、実技についても配信いただくととてもありがたいです。

- ミクロトームのお話なのに、ゴムのその後の染色までお話くださって、非常にありがたかったです。
- とても丁寧な説明で大変勉強になりました。ただ、ウルトラミクロトームではなくミクロトーム（クライオスタット）の講習会かと思って参加を申し込んでおりました。こちらの勘違いではございますが、案内の際は“ウルトラ”ミクロトームと記載頂いた方が良かったと思いました。

-以上-